



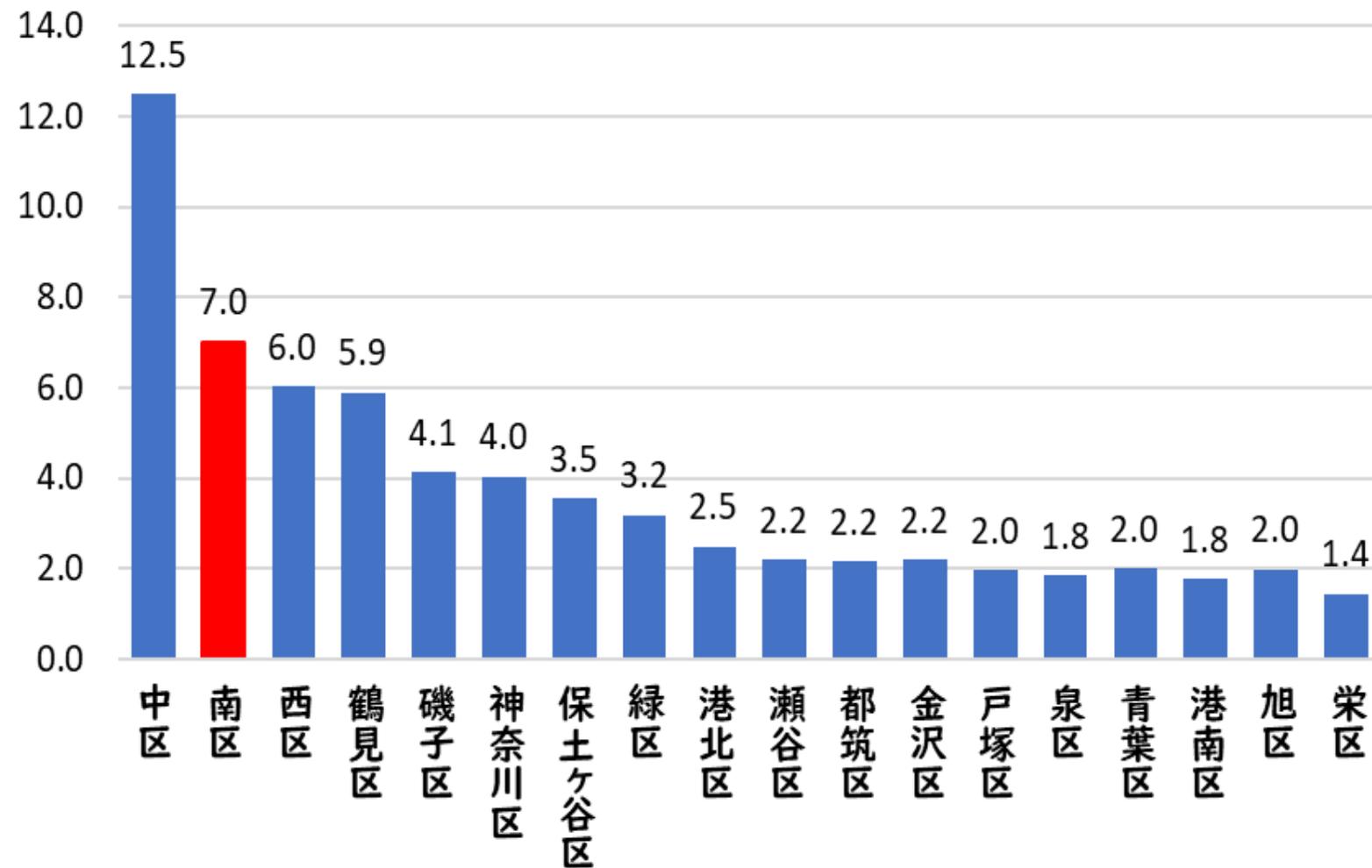
みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

Minami Citizens Activity & Multicultural Lounge

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

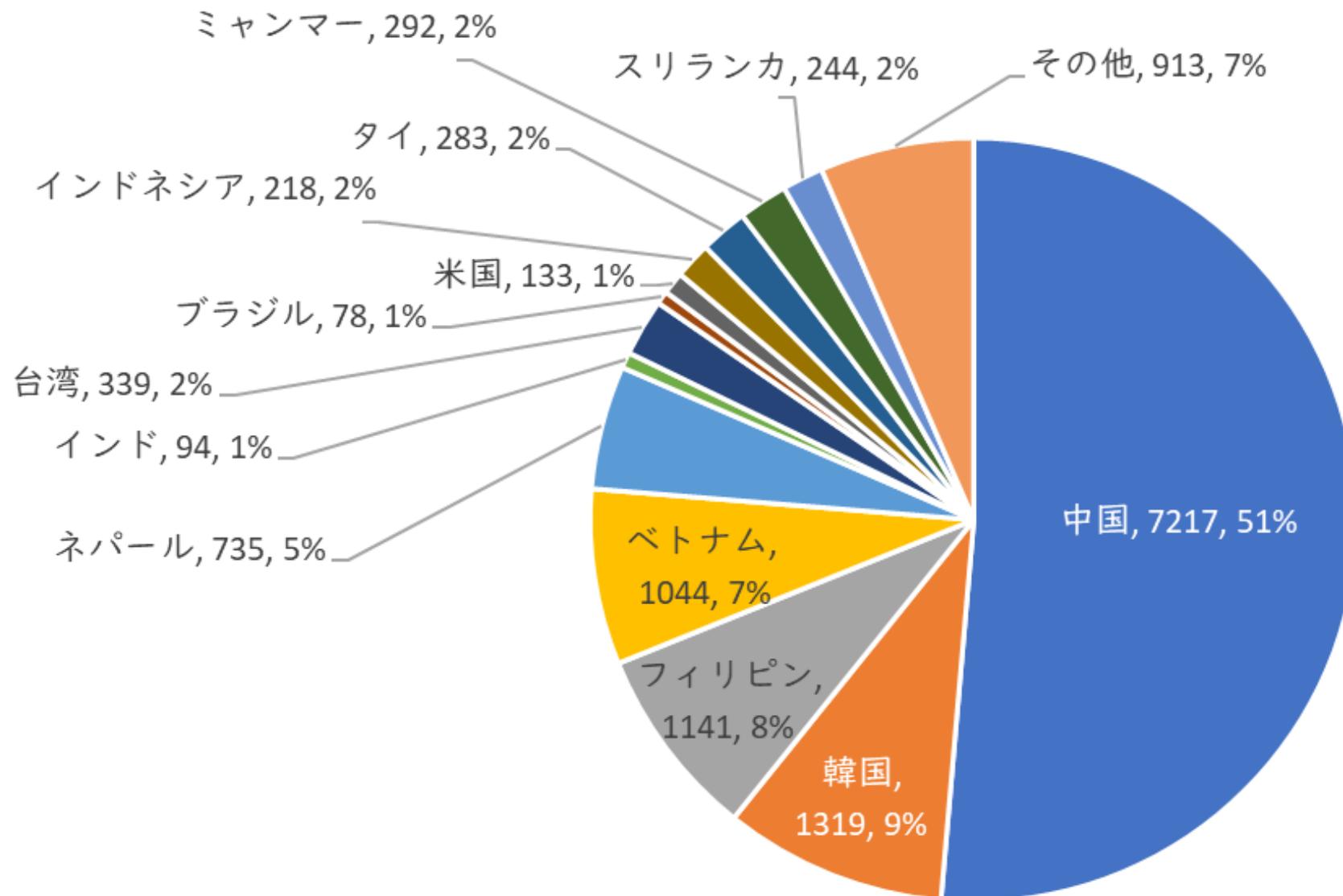
南区に暮らす外国人の現状

市内の区別外国人人数と割合(2025年6月末現在)



| 区 | 外国人人数 | 総人口 | 外国人割合(%) |
|-------|---------|-----------|----------|
| 中区 | 19,275 | 154,241 | 12.5 |
| 南区 | 14,050 | 200,114 | 7.0 |
| 西区 | 6,526 | 108,219 | 6.0 |
| 鶴見区 | 17,591 | 298,453 | 5.9 |
| 磯子区 | 6,792 | 164,200 | 4.1 |
| 神奈川区 | 10,237 | 253,338 | 4.0 |
| 保土ヶ谷区 | 7,282 | 205,781 | 3.5 |
| 緑区 | 5,808 | 182,477 | 3.2 |
| 港北区 | 9,128 | 367,529 | 2.5 |
| 瀬谷区 | 2,650 | 120,940 | 2.2 |
| 都筑区 | 4,610 | 214,299 | 2.2 |
| 金沢区 | 4,215 | 192,682 | 2.2 |
| 戸塚区 | 5,518 | 281,918 | 2.0 |
| 泉区 | 2,761 | 150,186 | 1.8 |
| 青葉区 | 6,153 | 307,423 | 2.0 |
| 港南区 | 3,750 | 211,482 | 1.8 |
| 旭区 | 4,761 | 240,137 | 2.0 |
| 栄区 | 1,730 | 120,057 | 1.4 |
| 横浜市 | 132,837 | 3,773,476 | 3.5 3 |

南区の外国人の国籍別人数(2025年6月末現在)

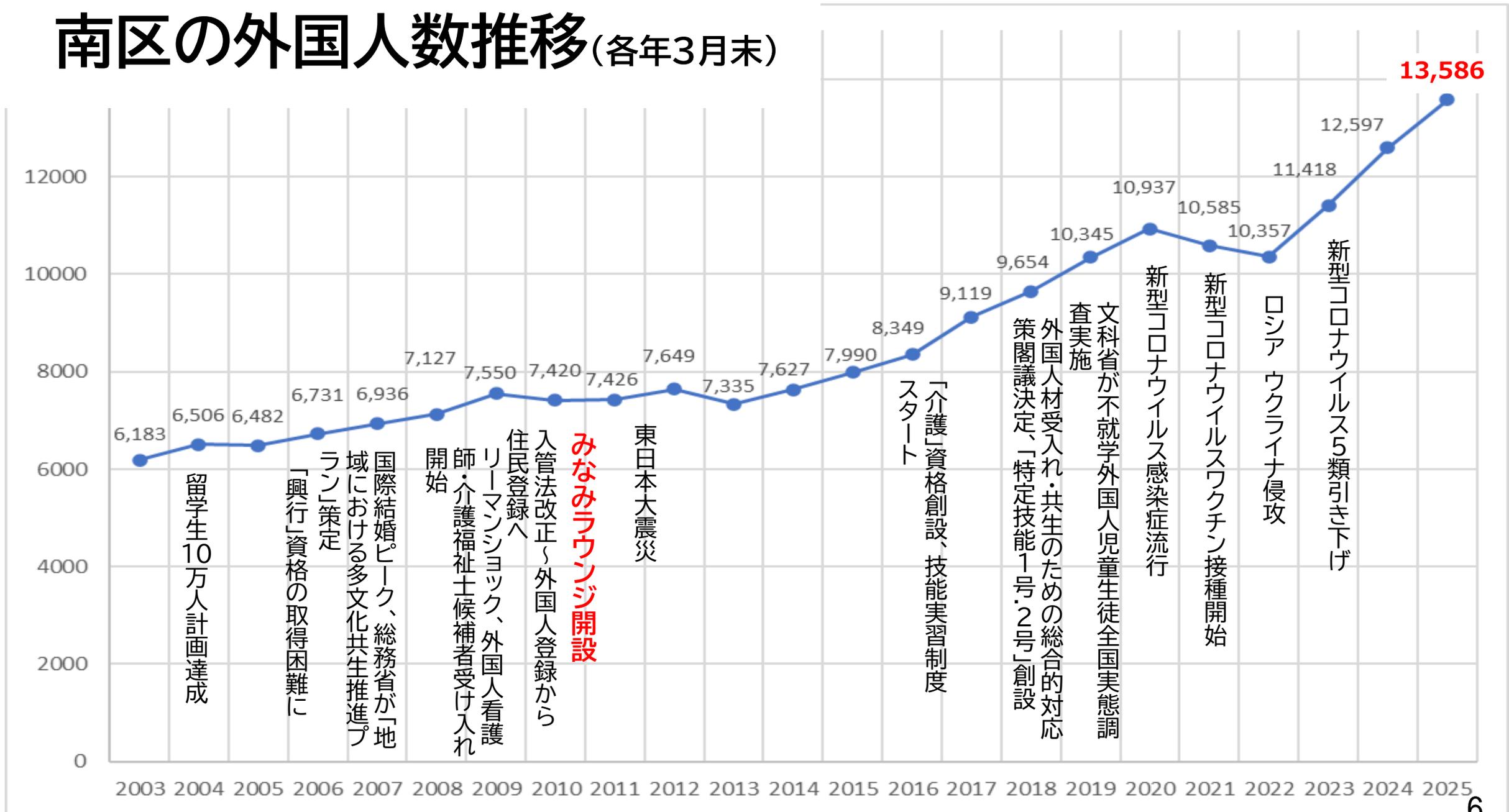


南区の外国人数と日本人数の推移比較

| | 外国人数 | 日本人数 | 総人口 |
|------|--------|---------|---------|
| 2005 | 6,553 | 191,094 | 197,647 |
| 2025 | 14,050 | 186,064 | 200,114 |
| 増 減 | 7,497 | -5,030 | 2,467 |

各年6月末日現在

南区の外国人人数推移(各年3月末)



南区で近年増加している国

| | ベトナム | ネパール |
|------------|--------------|--------------|
| 2015年6月末現在 | 288 人 | 80 人 |
| 2025年6月末現在 | 1044 人 | 735 人 |
| 増加率 | 3.6 倍 | 9.2 倍 |

| | ベトナム | ネパール |
|------------|--------------|--------------|
| 2015年6月末現在 | 3,264 人 | 1,767 人 |
| 2025年6月末現在 | 14,213 人 | 9,735 人 |
| 増加率 | 4.4 倍 | 5.5 倍 |

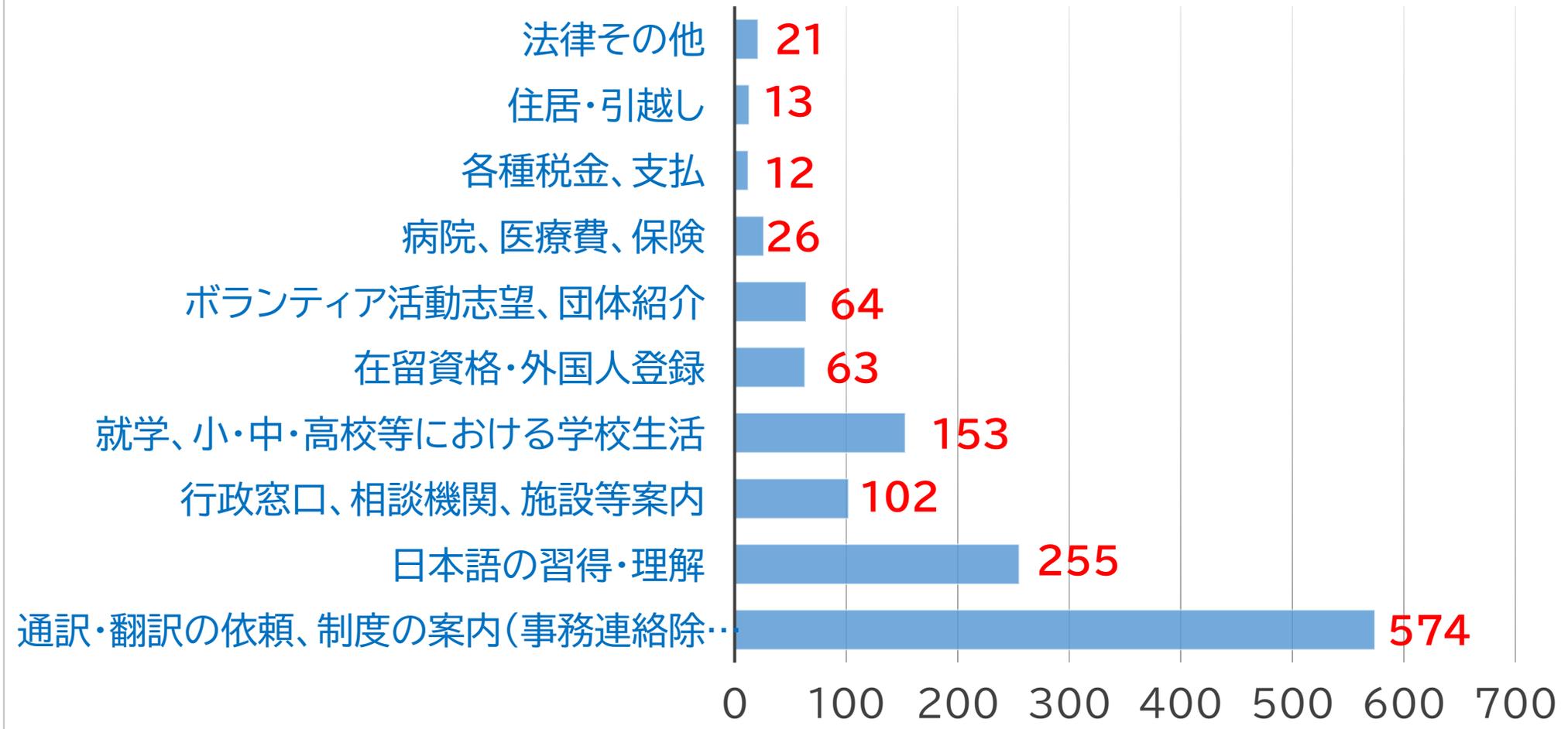
【参考】横浜市内の状況

多言語相談の最近の相談内容の傾向や課題

2024年度 相談件数 1,595件中

| 順位 | 分類 | 件数 | % |
|----|-----------------|-----|------|
| 1位 | 通訳・翻訳 | 574 | 40.0 |
| 2位 | 日本語学習 | 255 | 20.0 |
| 3位 | 教育・学校生活 | 153 | 9.6 |
| 4位 | くらし一般 | 102 | 6.4 |
| 5位 | ボランティア活動(紹介・志望) | 64 | 4.0 |

2024年度 内容別相談件数(上位10項目)



ことばの壁

制度の壁

こころの壁

横浜市教育委員会との連携 「母語支援活用事業」

【取り組み1】多文化共生ボランティア登録・派遣制度

| | |
|-------|---|
| 目的 | 多文化共生社会の実現に向けて、地域住民の国際交流・多文化理解を促進し、外国人住民の地域参加を支援するため。 |
| 登録対象者 | 多文化共生に関心のある方 |
| 登録者数 | 302人 |
| 登録言語 | 中国語、英語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語など 35言語 |
| 活動内容 | 学校への母語支援、日本語・外国語学習サポート、母語文化紹介、通訳・翻訳、イベントの企画・運営など |

2024年度派遣件数：256件

2022年ー2024年度 学校母語支援ボランティア派遣実績

| 年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|-----------|---|--|---------------------------------------|
| 支援対象児童数 | 93名 | 104名 | 110名 |
| ボランティア派遣数 | 51名 | 42名 | 39名 |
| 主な地域 | 横浜市内の30小中学校 | 横浜市内の27小中学校 | 横浜市内の29小中学校 |
| 支援言語 | 中国語、英語、ベトナム語、タガログ語、ネパール語、モンゴル語、ウルドゥー語、ウクライナ語、ペルシャ語、インドネシア語、ロシア語など | 中国語、英語、ベトナム語、タガログ語、ネパール語、モンゴル語、タイ語、ベンガル語、韓国語、ダリ語など | 中国語、英語、ベトナム語、ネパール語、モンゴル語、タイ語、ベンガル語、など |
| 支援内容 | 日本語支援、学習支援、母語通訳・翻訳、保護者サポートなど | | |

- ボランティア派遣数は減少傾向にあるが、支援対象児童数は年々増加している。
- 一人あたりのボランティアが支援する児童数が増加している。
- 学校数に多少の変動はあるものの、安定した支援が継続されている。
- 中国語支援は安定した高いニーズがある。英語支援も継続的に行われている。ベトナム語、ネパール語、ベンガル語などのアジア言語の支援も一定数存在する。
- 支援内容は全年度で共通しており、一貫したサポート体制が維持されている。

事例1:ベトナム語を母語とする小学生の授業理解支援

児童の基本状況

Aさん、女の子、来日して半年の小学校3年生。日本語はあいさつ程度。

当日の児童の様子

- ・終始静かで緊張している様子
- ・周囲の子の行動を見て動きを真似る
- ・先生の指示の理解に困難あり
- ・板書内容をノートに写すが、内容の理解は不十分
- ・名前を呼ばれると小さな声で返事をすが、それ以外の発話はなし



支援時の様子

- ・母語(ベトナム語)で話しかけると、驚いた表情をした後に安心して笑顔になる
- ・ベトナム語による説明にうなずきながら理解を示す
- ・ベトナム語と日本語を併記したプリントに興味を示し、自ら手を挙げて取り組む

事例2: 中国語を母語とする中学生の数学支援

生徒の基本状況

Bさん、男の子、来日したばかりの中学校1年生。日本語はほとんど話せない。



当日の生徒の様子

- ・授業中は、困惑した表情で周囲の生徒の様子を伺い、ほとんど発言しなかった。
- ・机に伏せることもある。
- ・算数の文章題の授業で、問題の意味が分からずノートが白紙のまま。



支援時の様子

- ・中国語での解説を聞くと、問題の意味をすぐに理解し、積極的に質問するようになった。
- ・以前はほとんど発言しなかったが、中国語で質問したり、自分の考えを説明したりするようになった。
- ・数学に対する苦手意識が薄れ、意欲的に問題に取り組むようになった。

母語支援活動の成果と反響

児童・生徒の変化

- ・日本語能力の向上
- ・学習意欲の向上
- ・社会的なつながりの増加



保護者からの主な声

- ・「日本語のサポートがあることで子どもの学習意欲が向上した」
- ・「家での学習に対する自信がついた」
- ・「学校に行くことが楽しくなった」



教師からの主な声

- ・「児童・生徒が授業へ積極的に参加するようになり、クラス全体の雰囲気よくなった」
- ・「支援があったことで理解が深まり、授業進行がスムーズになった」



【取り組み2】 母語支援ボランティア研修会の実施

- 1 目的** 母語支援ボランティアとしての心構えや基本的な知識を学び、実践的な対応スキルの向上を図るとともに、ボランティア同士の交流を通じて、今後の活動がよりスムーズになるようにする。
- 2 日時** 2023年6月29日(木) 14:00~16:00
- 3 参加者** 母語支援ボランティア、教育委員会、みなみラウンジスタッフ
- 4 参加数** 10言語・21名(定員15名を上回る参加)
- 5 内容** 多文化共生に関する基礎知識の講義
実際の支援事例の紹介
ワークショップ形式による実践的な意見交換・課題共有



参加者の声(一部抜粋)

- 情報交換会を通じて、活動に関する疑問を解消することができた。
- 今回の研修で得た知識を活かし、より積極的に活動へ参加したい。
- 教育委員会やみなみラウンジのスタッフの方々と意見交換ができ、今後の連携の可能性を感じた。

<成果>

多文化共生に関する理解の深化、対応スキルの向上、ボランティア間の交流、情報共有の促進など

<課題>

継続的な研修機会の確保、多言語対応のさらなる強化、情報共有体制の整備など

派遣窓口から見た母語支援活用事業の良いところ

- ①学校の人手不足の解消
- ②教育の質の向上
- ③地域とのつながりの強化
- ④多言語・多文化への理解の促進
- ⑤ボランティア自身の成長

派遣窓口から見られた主な課題

- ① 支援ニーズの急増と人材不足
- ② ボランティアの资源配置の不均衡
- ③ 学校側との情報連携不足
- ④ 活動の位置付けがあいまいで、支援内容や目的の共有が不十分
- ⑤ ボランティアに対してのフォロー体制の弱さ
- ⑥ ボランティアの確保と継続が難しい

改善に向けた提案

- ① 初期支援における手厚い対応
- ② 多言語化支援の充実
- ③ 学校側との連携・役割の明確化
- ④ ボランティア支援体制の整備

ありがとうございました



みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

Minami Citizens Activity & Multicultural Lounge